

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念があり、見やすい所に掲げている。理念を共有し、日々心において実践を取り組んでいる。	グループホーム独自の理念が作られている。定例会や日常業務の引継ぎの機会に話している。職員も理念を理解し日常生活の中で実践につなげる努力をしている。外部よりの訪問者にも分かるように玄関に掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設での行事の際は、地域の方に呼び掛け交流を図っている。	ホームの周辺には民家が少なく常に地域の方々との交流を行える環境ではないが、近隣の小学生によるミニコンサートでの訪問や、併設施設と合同の「お花見」・「納涼祭」・「もちつき大会」などを企画し地域住民との交流を図ろうと努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	にしうち敬老園としては要請がないので実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や、活動報告を毎回行っている。	家族代表・民生委員・地域包括センター職員・併設施設のケアマネージャーなどで構成されている。定期的に委員会を開催し、活動報告や外部評価の結果報告、委員の方々よりの意見・要望を聞き運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者と連携を図りサービスの質の向上に取り組んでいる。	2ヶ月に1回「介護相談員」を2名受け入れ、入居者と接していただき意見などを頂いている。市主催で行われる「健康推進委員」の事前研修の講師として職員を派遣するなど、市との関係作りにも力を注いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会をしたり、ミーティングをして職員の共有知識を図っている。一人ひとりの居場所を確認している為、日中は玄関のテンキーロックを極力切るようにしている。	夕方になり帰宅願望が強く出る時には職員配置をみながら安全上一時施錠することはあるが、基本的には玄関の施錠はしていない。研修などで身体拘束について職員は学び心得ている。「ちょっと待って!」とか「危ないから…」という発言も考えてするようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の勉強会を行い、高齢者虐待の徹底防止に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度についての資料をファイルし、読み合わせを行っている。又、学習会も参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項の説明等詳しく行い、納得した上で契約の手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、介護相談員が来園されており、1対1で話を聞いてもらっている。ご家族は、面会時、または電話にて利用者の状況を伝えている。また、グループホーム便りを発行して暮らしぶりを伝えている。出された意見、要望はミーティングで話し合い反映させている。	家族会が作られている。毎年5月にホームより食事会を兼ねた行事のお誘いの便りを出している。「にしうち敬老園便り」を発行、行事などを記して家族へ送っている。日用品等の購入についてはホームで立替払いをし、明細が利用料の請求書と一緒に同封され報告されている。遠くの家族へは電話で入居者の状況を詳しく報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、常に各職員の意見を聞き、運営に反映させている。	定例会が月に1回、第1月曜日に開かれ職員の意見交換の場となっている。朝と夕方の申し送り・引継ぎも円滑に行われている。法人の研修計画が年間で立てられおり、新人職員と中堅職員、管理者との共通の話題として上ることもあり、コミュニケーションを図りやすい環境にある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、向上心を持って働けるよう職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に積極的に参加できるようにしている。また、法人内で年5回の基礎研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互訪問や、事例検討等の意見交換を行い親睦を図っている。また、活動を通じて意見をケアに取り入れサービスの質の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始以前に本人と面会を行い、本人自身の訴えや願いをよく聴き、受け止めるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階から困っている事を聴き、安心して利用して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階では、まず本人、家族の話をしっかり聴いて、内容によっては、他のサービス活用を勧めることも考え対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等を知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日々の様子や変化等は、家族に報告し共有して支援の方法、対応について意見を交換している。また、家族会を開催し、家族同士の交流の機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、家族と会ったり、家族と外泊、美容院等馴染みの場所に出かける機会を作っている。	お盆やお正月に帰宅する入居者がいる。ホームと民家とは立地上離れているが、入居者の地域の友人が訪問することもある。昔からの四季折々の行事を通じて家族等の来訪を促し、生活に潤いをもたらす工夫をしている。	知人・友人が高齢化したり、地区での「敬老会」などの行事も少なくなる中、地域の方々との交流を踏まえつつ、併設施設の「通所介護」の利用者の方々などとの交流も考えていただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士が交流を持てるように配慮している。また、孤立しがちな利用者には、洗濯たたみの中で皆の輪の中に入れるようにしている。		

グループホームにいうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば対応する。終了の際に、利用者や家族にその旨をきちんと伝えるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向を把握できるよう、日々関わりを持ち探るよう努めている。本人本位の検討を心掛けている。	ホーム新築前からの入居者も継続入居されており、勤務の長い職員やこれまでのことをよく知る人々により変わらぬおつきあいが続いている。毎日の関わりで意思疎通が難しい場合には言葉でなく目や表情で汲み取って行動している。必ず声掛けをしてから支援に移っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、本人や家族に尋ねたりしながら、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、勤務交代の際の申し送りや記録によって情報共有し、対応を考えている。月に一度スタッフ会議を実施し、それぞれの暮らし方とそれのための支援を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャー等を中心として、本人、家族、関係者の希望や意見を反映した介護計画を作成している。	入居者二名に対して職員一名の担当制をとっている。定例会でプラン等に関する意見を出し、全員で話し合い管理者がまとめている。新人職員も担当を任せ、事前に管理者などに相談しながら案を作成している。定期的な見直しは、三ヶ月に1回行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細なことも個別記録に残し、その場にいなかった職員にも情報が伝わるよう努め、実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体機能の維持・向上の目的も兼ね、併設のデイサービスの体操・レクリエーションに参加して頂いている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	研修ボランティアや学生ボランティアを受け入れている。また、地域消防団へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。各医療機関からの情報は個別に記録と共に保管し皆で共有している。	同一敷地内に法人の診療所があり、協力医にもなっている。毎月二回の健診が行われている。従来のかかりつけ医希望の方は継続し、通院は家族の付き添いで行われている。「緊急時対応」のための書類を入居時に家族より頂き、万が一の時に役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師一名を配置し、利用者の日常の健康管理に努めると共に、必要に応じて医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、医療関係者と十分に情報交換をし、少しでも早期退院が出来るよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	随時、家族・かかりつけ医と連絡を取り意見・情報交換をしている。また、状況に応じ早い段階から医師からの病状説明をお願いし、家族が安心して納得出来る最期を迎えられるよう支援している。	「看取りに関する指針書」が作られている。法人の方針として、入居された後の日常生活の中で病気・衰え等を認めた場合に、受け入れる体制が整っている。関係者によりその都度家族との話し合いをもち、方向性を定めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、消防署による救急法の勉強会を実施し、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回にわたり、防災訓練を実施し、迅速な避難が出来るよう努めている。	春・秋の年二回併設施設と合同で防災訓練が行われている。スプリンクラー・自動火災報知器が取り付けられている。避難方法や避難経路についても職員に徹底されている。併設施設は老朽化と立地条件により、建替えの検討もされている。	万が一に備え併設施設からのバックアップを前提とするのではなく、グループホーム独自の訓練を計画し実施していただきたい。可能な範囲で入居者の訓練参加もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に、誇りやプライバシーを確保した上で関わりを大切にしている。	「個人の尊厳を大切に・・・」と入居者への呼びかけは名前で呼びかけ、職員の対応も穏やかであった。個々への話しかけは土地の言葉も交え、入居者の思いに沿えるように親しみを込めた丁寧な接し方であった。入居者と職員の関わりも長く、お互いを熟知しているので信頼関係が出来上がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を言える雰囲気作りに心掛けている。また、意思表示出来ない方には職員の言葉掛けで表情から探っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、笑顔が見られるように柔軟な心で関わり希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回外部からの理髪店の受け入れを行っており、希望者は馴染みの美容院を利用して頂いている。また、行事の時はその場に合った身なりで参加して頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、味付け、盛り付け、片付け等一連の作業を行っている。	入居者と職員と一緒に感想を言いながら楽しく食べている。全介助の方もメニューは同じで調理方法を変え食べている。その日の状態で、出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。花見・クリスマス・誕生会などには行事に沿った特別の献立を考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考え、季節の食材をメニューに取り入れれたり嗜好も配慮している。水分量も確保出来るようロメリンやゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学び、ご自分で出来る方には声掛け、見守りし、支援が必要な方には義歯を外し、口腔内の清潔に努めている。		

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の必要に応じ、排泄表を作成。そのパターンに合わせて声掛け・誘導を行っている。	自立の方、見守りを必要とする方、全介助の方と各入居者に合わせ対応をしている。排泄パターンを把握し、昼間、夜間いずれとも職員が時間で声掛けをし支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事メニューを工夫している。下剤を使用する場合は、使用過多にならぬようその時の状況に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、本人の希望に合わせて入浴出来るよう支援している。また、入浴を嫌がる利用者には安心出来るような言葉掛けの工夫をし、対応している。	ホームの浴室を開けると、温泉がこんこんと湧き出ている。少なくとも1週間に2回の入浴となっているが、希望者は毎日でも入浴できる。全介助の方も職員2名の介助で浴槽に入り、温泉入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方から就寝に向けて、安心した時間の過ごし方を職員で工夫し、就寝リズムが安定するよう環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が分かるよう徹底している。また、変化等あった場合は随時記録をし、医療との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事を理解した上で、利用者が一日を充実出来るような支援をしている。また、個人の能力に合わせ、やりがいを感じて頂けるような役割を提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に対し、出来る限り外出できるようにしている。また、車椅子等使用し歩行困難な方も外へ出られるよう工夫している。	家族と一緒に外出して買い物を楽しんだり、四季に合わせて併設施設の大型の車を使いドライブに出かけている。車椅子の方については職員が敷地内を車椅子を押して散歩したり、外の空気に触れることで刺激を受けている。年3回、法人本部の建物内にあるレストランにも出かけている。	

グループホームにしうち敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭管理の力量を検討し、お金を所持し、買い物の際に支払えるよう家族とも相談し取り組んでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという要望があれば、電話を貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾品を飾り、季節感を取り入れ、照明、材質等も温かみを感じられるものを使用している。	リビングの窓からは周りの山々がすぐ側に望め、季節の移り変わりが体感できる。春には窓の下の桜並木が美しく咲き誇り居ながらにしてお花見が出来る。ホーム内はエアコンとストーブで暖房されている。共有スペースの一角には畳の小上がりがあり仏壇が置かれている。入居者のご先祖様ということではないが、手をあわせる癒しの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身がくつろげる場所を確保している。(居間、日当たりの良い廊下等)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力もあり、利用者それぞれに合った居室作りに取り組んでいる。	各居室は十分なスペースが確保されており、タンス、テレビなどが持ち込まれている。入居者の生活様式に合わせてフローリングの床に畳を敷き寝具を布団にするなどの様々な工夫がされている。居室の入り口には木で作られたプレートが表示されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、廊下には、全面手すりを備えつけ、安全な生活が送れるよう配慮している。		